

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 函南町立函南小学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	全校児童・462名 (1年・80名)(2年・66名)(3年・85名) (4年・82名)(5年・66名)(6年・70名)(支援級・13名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育・学級活動・総合的な学習の時間) 行事名() ② その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	世界中の注目を集め、さらに身近な場所でも競技が行われる東京2020大会は、児童にとって大変貴重な機会となる。オリンピック・パラリンピックの種目を経験することで、さらにオリンピック、パラリンピックを身近に感じ、スポーツを通して心と体をきたえ、世界中の人と交流して平和な世界を築いていこうとする精神を育成する。 また、オリンピックやパラリンピアン映像を見ることにより、自らの夢に向けて何事にも挑戦する意欲を高めるとともに、失敗してもあきらめない強い意志を育てる。
5 取組内容	① 基礎的知識の理解についての学習会 ・古代オリンピックと近代オリンピックの歴史 ・競技種目の紹介 ・マスコットキャラクターの紹介 ・都市鉱山からつくる みんなのメダルプロジェクトの紹介 ・ボッチャ体験 ・オリンピックとパラリンピックの違い ・オリンピック休戦 ・オリンピック、パラリンピック関連のイベント紹介



②パラリンピック種目の体験
【ボッチャ、ゴールボール体験】



6 主な成果

学習会を行ったことで、オリンピックやパラリンピックに向けた活動が身近な所でも多くあることが伝わった。また、パラリンピックはオリンピックと比べるとあまり「すごい」というイメージが子どもたちの中にはなかったが、映像資料をみたり、実際に自分たちが体験したりすることでパラリンピック選手の凄さを実感することができた。

特に、パラリンピックの体験は、子ども達にとって良い経験になった。視覚障害者がスポーツを行うことの難しさだけではなく、パラスポーツの面白さや、奥深さを感じた子どももいた。さらに、声を掛け合うことがとても重要だと気づき、野球やサッカーをする際にも声の掛け合いを大切にしていきたいという感想をもった子どももいた。

7実践において工夫した点
(事業の特色)

子ども達にあまり馴染みのないパラリンピックにあえて重点を置き、体験を通して、パラリンピックに関心を持つことができるようにした。また、オリンピック・パラリンピックに関する基礎知識を学習会形式で学ぶことで、東京2020を待ち望む思いを高めるようにした。

8主な課題等

オリンピック、パラリンピック選手との繋がりをもつ人間がいなかったため、校内でできることを企画し実践した。しかし、年間計画に入っていないため、授業の中に組み込むことや、学習会に向けた準備が大きな負担となってしまった。

9来年度以降
の実施予定

ボッチャを、雨の日の教室遊びの道具としたり、縦割り活動に取り入れたりして、子ども達にとってさらに身近なものにしていきたい。

